

後深草天皇 89代天皇。関東中次西園寺実兼の幕府への働きかけで、持明院統の始になった。

ごぶかくさてんのう
鎌倉大仏完成1243 =

生。後嵯峨天皇の第三皇子。母は太政大臣西園寺実氏の娘で中宮の姑子(大宮院)。名は久仁。
生誕後ほどなく親王に立てられ、

北条時頼執権1246 = 3歳 : 踐祚, 父の後嵯峨上皇が院政を行った。

皇族將軍始・1252 = **9歳** :

北条時頼出家1256 = 13歳 : 母の妹公子(東二条院)が入内,
..... 1257 = 14歳 : 中宮となった。

二統分化の因1259 = 16歳 : 父の命により, 在位13年余で, 弟の龜山天皇に譲位した。

..... 1261 = **18歳** :

後嵯峨上皇は後深草天皇よりも龜山天皇を愛し, 後深草に皇子があるにもかかわらず,

北条時宗執権1268 = 25歳 : 龜山の皇子世仁親王を皇太子とした。

..... 1270 = **27歳** :

二月騒動・1272 = 29歳 : 後嵯峨法皇が死去したが, 法皇はその後の治天の君を後深草・龜山のいずれにするかについては, 鎌倉幕府の決定に委ねる旨を遺命した。幕府は法皇の本意を大宮院に尋ね, その回答に従い, 龜山天皇を治天の君と定め, 天皇の親政が実現した。しかし後深草上皇はこのような解決に不満をいだき, 後深草系の持明院統と龜山系の太上天皇の尊号および隨身兵仗を辞して出家しようとした。関東中次であった権大納言西園寺実兼(実氏の孫)は後深草上皇のために奔走し, 幕府の斡旋により, 後深草の皇子熙仁親王(母は左大臣洞院実雄の娘, 玄輝門院惜子)が皇太子に立てられた。

元寇文永の役1274 = 31歳 : 龜山天皇は世仁親王, すなわち後宇多天皇に譲位したが, 不満の募る後深草上皇は,
元使斬殺・1275 = 32歳 : 太上天皇の尊号および隨身兵仗を辞して出家しようとした。関東中次であった権大納言西園寺実兼(実氏の孫)は後深草上皇のために奔走し, 幕府の斡旋により, 後深草の皇子熙仁親王(母は左大臣洞院実雄の娘, 玄輝門院惜子)が皇太子に立てられた。

無学祖元来日1279 = **36歳** :

元寇弘安の役1281 = 37歳 :

北条時宗没・1284 = 40歳 :

..... 1287 = 44歳 : *熙仁は踐祚して伏見天皇となり, 後深草上皇が院政を行うが, 実際は幕府と実兼の意向によって決った。
..... 1288 = **45歳** : 伏見天皇の皇子胤仁(母は参議藤原経氏の娘経子)が生まれたが, 胤仁親王は中宮鐘子(実兼の娘, 永福門院)の猶子となり,

久明親王將軍1289 = 46歳 : 皇太子となる。後深草上皇の皇子久明親王が征夷大將軍として鎌倉に迎えられるなど, 時勢は持明院統に有利となり, 後深草・龜山の立場も以前とは逆転するに至り, これに不満を感じた龜山上皇は出家する。

..... 1290 = 47歳 : *子孫が天皇・皇太子・將軍となったことに満足した後深草上皇も, 龜山殿で出家。後深草上皇の院政はわずか2年余で終り, 伏見天皇の親政となり, その後も折にふれて天皇から政治の相談を受けるが, 後深草法皇は通例とは異なり政務を辞し, 執筆してきた日記の筆をも中止する。

..... 1291 = 48歳 : 東大寺で受戒した。

平禅門の乱・1293 = 50歳 :

永仁徳政令・1297 = **54歳** :

..... 1298 = 55歳 : 胤仁親王は踐祚して後伏見天皇となり,

後二条天皇・1301 = 58歳 : 大覚寺統の後二条天皇(後宇多上皇の皇子)が踐祚するまで, 持明院統の治世が続いた。

..... 1304 = 61歳 : 富小路殿で没した。
日記に「後深草天皇良記」がある。